

■(俊乗房)重源 僧。忽然と現れて、平氏が焼失させた東大寺再建の大勲進となり、南都仏師と宋人技術者活用して完成。

ちょうげん
藤原忠通関白1121＝ 生、左馬允紀季重(一説には季良)の子。

鳥羽院政始・1129＝ 8歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1130＝ 9歳：

忠盛宋船横領1133＝12歳： 醍醐寺で出家、真言宗修験道開祖の聖宝の流れをくむ上醍醐の円明房に止住、俊乗房重源と称した。

のち、みずから南無阿弥陀仏とも名乗る。

・ ・ ・ ・ ・ 1137＝16歳：四国辺を修行し、

・ ・ ・ ・ ・ 1139＝18歳：はじめて大峯山に登山、

以来5度修行し、また熊野・御嶽・葛城にも登山して修行したという。出家後の重源は、学僧ではなく、聖の徒となった。すなわち霊地・霊山を行脚して修行し、各地を遊行して人々に仏法を説き、造寺・造仏・写経・鋳鐘などの作善や橋をかけ、池を掘るなどの社会事業を実践する勲進聖として成長し、しだいに阿弥陀仏への信仰を深め、また高野山を本拠とする、いわゆる高野聖の一員となったと思われる。

・ ・ ・ ・ ・ 1148＝27歳：

保元の乱・ ・ 1156＝35歳：
藤原基衡没・1157＝36歳：

平治の乱・ ・ 1159＝38歳：

重源の前半生については、

源頼政内昇殿1166＝45歳：
清盛太政大臣1167＝46歳： 入宋。
厳島神社・ ・ 1168＝47歳： 荣西と天台山に登った後、共に帰国。

法然浄土宗始1175＝54歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1176＝55歳： この年までに3度宋に渡航したと伝えるが、その事跡は定かでない。

源氏一斉蜂起1180＝59歳： 平重衡の兵火により東大寺が炎上し、
平清盛没・ ・ 1181＝60歳： *東大寺再興造営勲進の宣旨を受け、生涯の大きな転機を迎えた。はじめこの大勲進職は法然に下命があったものの、法然が辞退して重源を推挙したともいわれるが、勲進聖としてすでに十分な実績と、配下の集団を擁していたことが重源起用の理由であろう。さっそく一輪車を6両造り、左右に再建の詔書と勲進疏をはり、重源みずからもこの車に乗って諸国を巡行した。こうして重源は東大寺再興に全力を傾け、この頃から重源自身“南無阿弥陀仏”と名乗りはじめ、阿弥陀の化身が一輪車で行く奇抜なアイデアで庶民の関心を引き立てながら、大仏への結縁と、あわせて阿弥陀信仰をすすめて歩いたわけである。法名に「何々阿弥陀仏」とつけるのも、重源の創始とされる。一方、室生寺の舍利を弟子に盗み出させて後白河法皇に献じるなど、露骨な手段もとりながら、法皇はじめ九条兼実らの公家や源頼朝から、大口の援助を引き出すことにも成功した。技術的にも重源の創意になることが多く、

・ ・ ・ ・ ・ 1184＝63歳： 宋の鋳物師陳和卿らの協力で、大仏の鋳造をほぼ終わり、

平氏滅亡・ ・ 1185＝64歳： *大仏開眼会を行った。

九条兼実摂政1186＝65歳： 周防国が東大寺造営料にあてられたため番匠を率いて下向、みずから良材を探して巨木を搬出し、

藤原秀衡没・1187＝66歳： 周防国阿弥陀寺を建立。

奥州藤原滅亡1189＝68歳：

源頼朝上洛・1190＝69歳： 大仏殿棟上が終わると、 室内荘厳のため仏師院尊、康慶、運慶、快慶や宋の石工伊行末を動員して南大門の金剛力士像などを造立。

鎌倉幕府始・1192＝71歳： 播磨に浄土寺浄土堂(国宝)・薬師堂を建立。

・ ・ ・ ・ ・ 1193＝72歳：

東大寺再建完1195＝74歳： 大仏殿はじめ中門などの造営がひとまず成って、後鳥羽天皇・將軍源頼朝ら臨席のもと、盛大に落慶法会が営まれ、重源は大和尚の号を受けた。それまでの勲進聖としての経験の蓄積に加えて、さらに大きな努力を重ねて資金を募集し技術上の困難も克服したことで、この短時日に再興が成ったのである。醍醐寺に宋本一切経を納め、経蔵を建立する。

源頼朝没・ ・ 1199＝78歳： 上棟した南大門が、同じく重源創建の播磨小野の澤土寺浄土堂とともに現在に伝わり、大仏様と呼ばれるが、実は重源様でなかったかとされる。こうした手腕は、当時から「支度第一俊乗房」とたたえられた。

・ ・ ・ ・ ・ 1202＝81歳：

執権政治始・1203＝82歳： *東大寺総供養を行った。この頃、重源は「南無阿弥陀仏作善集」と名付けて生涯の事績を記録した。それによれば、東大寺大仏はじめ造立した丈6仏像はすべて53体、修造・創造した寺はそれぞれ多くの建物・仏像・経巻などを含めて、東大寺・醍醐寺をはじめ、高野山新別所、摂津渡辺別所、播磨別所(浄土寺)、伊賀別所(新大仏寺)、周防阿弥陀寺など多数にのぼり、さらに渡辺橋、長柄橋、清水寺橋、勢多橋などの修造、魚住泊の改修、備前船坂山の道路の改修など、多くの社会事業も記されている。東大寺の造営は、塔の造営計画にまで進んでいたが、

モンゴル帝国・1206＝85歳： 東大寺で寂した。東大寺俊乗堂には、重源像がまつられている。

「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「人物日本歴史館」、「日本の群像」、平凡社百科事典、